

支援場面：A) 食事・栄養ケア

	看護職 point	連携の内容	介護職 point
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を踏まえて、身体状態を総合的にアセスメントする。 ・介護職にとって重要な栄養・食事ケアの情報・視点は、介護職に伝える。 【食事のアセスメント】 ・食事摂取に関する問題の有無を確認する。 ・嚥下訓練・喀痰吸引・口腔ケアの必要性を判断する。 【栄養のアセスメント】 ・栄養状態の問題（低栄養・栄養バランスの偏りなどのトラブル）の有無を確認する。 【食事栄養の問題に対する原因のアセスメント】 →認知機能・ALD機能・治療食との関係・活動量などの影響や全身状態を含めたアセスメントをする。 【リスクのアセスメント】 ・食事・水分摂取の不足 →栄養・体重減少・脱水・便秘 ・食事の過剰摂取 →高血糖・肥満など ・栄養バランスのくずれ →浮腫 ・むせる →肺炎・窒息 ・むせない →不顕性誤嚥肺炎 ・食中毒・経口感染リスク 等 	<ul style="list-style-type: none"> 【特に連携が必要な利用者】 <input type="checkbox"/> 食事量減少・体重減少・低栄養のリスクがある <input type="checkbox"/> 脱水のリスクがある <input type="checkbox"/> 摂食・嚥下機能に障害がある（そしゃく困難・のみこみ困難・むせ・逆流など） <input type="checkbox"/> 食事動作に介助が必要(姿勢保持・上肢麻痺 等) <input type="checkbox"/> 治療食・食事制限が必要（糖尿病・心臓病 等） <input type="checkbox"/> 食前・食後に対応が必要（喀痰吸引・嚥下訓練・与薬・口腔ケア） <input type="checkbox"/> 経管栄養による栄養摂取が必要 <input type="checkbox"/> 独居、認知機能障害 【共有する（観察・確認する）情報・方法】 〈基本的な食事の情報〉 <input type="checkbox"/> 食事・水分・栄養摂取の状況と経過 <ul style="list-style-type: none"> ・食事内容（食事形態・禁忌・アレルギー・治療食） ・量・食べ方・一口量・食事の速さ・食事時刻と時間 <input type="checkbox"/> 食器・食食用具（自助具） <input type="checkbox"/> 食事に対する意識・気持ち（食欲・嗜好・習慣等） <input type="checkbox"/> 食事のトラブル <ul style="list-style-type: none"> ・食事動作の不具合・食事の姿勢の不具合 ・食事中の疲れ・むせ・食事に集中できない 等 <input type="checkbox"/> 家族の食事介助方法（習慣や大事にしていること等） 〈基本的な栄養の情報〉 <input type="checkbox"/> 身長・体重・BMI <input type="checkbox"/> 手足のむくみ <input type="checkbox"/> 栄養バランス（食欲不振や嗜好による偏食 など） <input type="checkbox"/> 治療食の場合の摂取内容 <input type="checkbox"/> 経管栄養の場合の情報（→※本シートでは省略） 〈潜在するリスク〉 <input type="checkbox"/> 低栄養・体重減少・脱水 <input type="checkbox"/> 誤嚥・窒息・肺炎 <input type="checkbox"/> 便秘・下痢 <input type="checkbox"/> 食中毒 <input type="checkbox"/> アレルギー 〈情報を共有する方法〉 <input type="checkbox"/> 食事・栄養摂取記録シート（日誌・チェック表） 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を踏まえて、利用者に適した食事介助法や留意点を検討する。 ・利用者および利用者の生活にとっての「食」の意味（楽しみ）を検討する。 ・介護職だけで対応することが難しい利用者については、とくに看護職との役割分担が重要。 ・看護職にとって重要な情報を把握して、看護職に伝える。特に注意を要する観察項目を確認しておく。 ・家族の食事介助方法が危険なときに、看護職から理由も含めて説明してもらうことで理解を得られるか、検討する。 ・基本的な食事・栄養の状態から、どのくらいの活動が可能かどうかを把握し、日常生活の支援に反映する。
計画	<ul style="list-style-type: none"> 【看護計画立案】 ・基本的な食事・栄養状況、食事動作、介助方法・手順は、介護職とともに立案し、統一した方法を確認する。 ・介護職に観察しておいてほしいこと、すぐに連絡（対応）が必要な情報は、事前に伝えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 【方法・手順】 ※微調整可能な範囲や計画見直しを随時相談する <input type="checkbox"/> 食事内容（アレルギーや禁忌の食材・治療食・薬との食べ合わせなど） <input type="checkbox"/> 食事形態（きざみ・とろみ）・調理方法 <input type="checkbox"/> 食事の姿勢の保持方法や工夫（食事をする場所・座位の保持・首の角度や安定など） <input type="checkbox"/> 誤嚥を防止して安楽に食事ができるための方法 <input type="checkbox"/> 介助の方法・工夫（食事動作のうち介助する動作と方法・一口量・食事のペース・嚥下の確認のしかた） <ul style="list-style-type: none"> ※食を楽しめるような工夫 ※自分で食事が摂れるような食器や用具の工夫 <input type="checkbox"/> 食事・前後のケアが必要な場合の方法（分担）（喀痰吸引・嚥下訓練・口腔ケア・与薬） <input type="checkbox"/> むせた場合の対応計画（方針） <input type="checkbox"/> 食事が止まり、食欲がない場合の対応計画 <input type="checkbox"/> 食事や水分摂取を促すための介助方法や工夫 <input type="checkbox"/> 食欲を促す調理（味つけや調理法）の工夫 <input type="checkbox"/> むせがある場合の役割分担 <ul style="list-style-type: none"> ・時折むせがあり、食事の前後に喀痰吸引が必要な場合は、誰が食事介助を担当するか ・体位保持は誰がどこをどのように支えるか ・どのようなときに、食事を中止するべきか ・どのようなときに、緊急で医師・看護職に連絡するか <input type="checkbox"/> 脱水の悪化予防策 ・水分摂取の工夫（味・とろみ・一回量・回数など） <input type="checkbox"/> 食中毒防止のための食器・器具の取り扱い 【連絡（共有）が必要な情報の事前取り決め】 <input type="checkbox"/> 食事摂取量・水分摂取量がどのようなときに、すぐに連絡・対応が必要なのか <input type="checkbox"/> 食事の際に利用者がどのような状態になったときに、緊急の連絡・対応が必要なのか <input type="checkbox"/> 下痢・便秘がどのくらい続いたら、連絡が必要なのか 【役割分担】 <input type="checkbox"/> 摂食・嚥下機能に障害がある人、食前食後に対応が必要な人（喀痰吸引・嚥下訓練・口腔ケア・与薬）の食事介助の役割分担（例）（看護職と介護職で前後ケアを分担） <input type="checkbox"/> 治療食や水分制限の人の栄養管理の役割分担（治療や身体状態に食事が影響しやすい人） <input type="checkbox"/> 食事時間を十分確保する必要がある、食後注意が必要な場合の担当者の順番（介護職→看護職） 	<ul style="list-style-type: none"> 【介護計画立案】 ・基本的な食事・栄養状況、食事動作・方法・手順は、介護職とともに立案し、統一した方法を確認する。 ・医療管理が必要な人（喀痰吸引の準備や食事前後の重要な与薬管理）の場合は、注意すべきことを確認しておく。（介護職で観察・対処した方がよいこと） <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● すぐに連絡をしたほうがよい情報（緊急） ● 急がないが、必ず伝えたほうがよい情報 ● 直接の連絡は不要だが、記録しておく情報 </div>
実施	<ul style="list-style-type: none"> ・異常やトラブル発生時の対応について、医師と事前に相談しておく。必要に応じて医師に連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【方法・手順の遵守】 <input type="checkbox"/> 計画した食事内容・形態・姿勢・介助方法を守る <ul style="list-style-type: none"> ※基本的には統一した方法を逸脱しない範囲で、利用者の状況のその時の状態に合わせて方法を微調整することは必要 <input type="checkbox"/> （調理をする場合）決められた食材・調理法を守る <input type="checkbox"/> 食事前後に必要なケア（喀痰吸引・与薬）を守る 【実施中の観察・確認】 <input type="checkbox"/> 〈基本的食事・栄養情報〉〈潜在するリスク〉に関する状況を観察・確認する 【一緒に実施する】 <input type="checkbox"/> 食事のセッティング、体位調整、食事介助、食事前後ケアを分担しながら一緒に行う場合は、利用者に声をかけるとともに両職種で確認しあう 【異常や予期せぬトラブルがあった場合の対応】 <input type="checkbox"/> 食事前後や食事中の状態の変化があった場合は 事前に決めた連絡方法で情報を共有し対応する 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施中に異常やトラブルが発生（遭遇）した場合は、すぐに医師・看護師に連絡する。
結果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、食事内容・形態・介助方法の変更を介護職に相談する。 ・食事栄養に関する情報を踏まえて、今後の排泄コントロール、脱水予防、褥瘡予防の計画を見直す。 ・必要に応じて、脱水や低栄養が著しい場合には、<u>医師</u>に報告し、必要に応じて点滴など検討してもらう。 ・新たにトラブル発生のリスクが生じた場合には、改めて介護職に観察してほしいこと、生活支援上の留意点を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 【記録】 〈基本的な食事の情報〉 <input type="checkbox"/> 食事・水分・栄養摂取の状況と経過 <ul style="list-style-type: none"> 食事内容（食事形態・禁忌・アレルギー・治療食）量・食べ方・一口量・食事の速さ 食事時刻と時間 <input type="checkbox"/> 食器・食食用具（自助具） <input type="checkbox"/> 食事に対する意識・気持ち（食欲・嗜好・習慣 等） <input type="checkbox"/> 食事のトラブル <ul style="list-style-type: none"> ・食事動作の不具合・食事の姿勢の不具合 ・食事中の疲れ・むせ・食事に集中できない等 <input type="checkbox"/> 家族の食事介助法（習慣や大事にしていること等） 〈基本的な栄養の情報〉 <input type="checkbox"/> 身長・体重・BMI <input type="checkbox"/> 手足のむくみ <input type="checkbox"/> 栄養バランス <input type="checkbox"/> 治療食の場合の摂取内容 <input type="checkbox"/> 経管栄養の場合の情報（→※本シートでは省略） 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、ケア方法の変更を看護職に相談する。 ・排泄の情報を踏まえて、次のケアに継続する。 ・自分が介護を担当する時間、もしくは次の介護担当者に起こり得ることを確認・伝える。（例：下剤が投与されたあとなので、排便がいつもより頻回で多量かもしれない） ・すでに看護職は知っているだろうと思いこまず、気になっていることも含めて看護職に伝える。